

## 神の建造のための祭司職の回復

(主日——午前の第一の部)

メッセージ 7

### 祭司の体系の中心的で究極の点

聖書：出 28:15-30

- I. 出エジプト記第 28 章 15 節から 30 節によれば、裁き（決断）の胸当てが祭司の衣服の中心的な項目であり、祭司の体系の中心的で究極の点です：
- A. 裁きの胸当ての主要な目的は、神の導きのためでした。神の民は、胸当ての実際を通して獲得された神の導きにしがたって行動します。
  - B. 胸当ては召会を予表します。もしわたしたちが召会を知らないなら、神の導きは何であるかを知らないでしょう。実は、神の導きと召会は一です。
  - C. 神は、召会を通して、召会によって、召会と共にわたしたちが何を行なうべきかを啓示します。召会が神の導きです。なぜなら、召会は神聖なアルファベットを担っており、それによって神はご自身の導きを知らせるからです——21 節。参照、詩 73:2-3, 16-17, 22-28。
  - D. 裁きの胸当ては、天的で、神聖で、霊的なタイプライター（キーボード）として機能して神の導きを知らせました。この天的なタイプライターが祭司の衣服の中心そのものでした。
  - E. 胸当ては、裁きの胸当てと呼ばれていました。なぜなら、それから人は解決を得たからです。大祭司が胸当てを着けて神の臨在の中へと入ったとき、神の光が照らし、ある石が暗くなり、神のみこころが完全に現されました。
  - F. アロンの胸（心の上）に抱かれていた胸当ては、エホバの御前での記念のためであり、一つの建造された実体としての召会全体がキリストの愛する心の上に抱かれ、神の御前での記念、喜ばせる記念となることを表徴します——出 28:29：
    - 1. キリストのからだ、神の神聖な啓示の高嶺<sup>たかね</sup>としての召会は、宇宙における神の偉大なみこころです——エペソ 1:5, 9, 11, 22-23。
    - 2. キリストのからだの實行と表現としてのからだの生活は、地上におけるわたしたちに対する神の偉大なみこころです——ローマ 12:1-2。
    - 3. キリストのからだとからだの生活は、神のみこころの大いなる喜びであり、神が心から愛するものです——エペソ 1:5 後半, 9。
- II. 胸当ての上に十二の宝石があり、その上にイスラエルの十二部族の名が彫

## 7. 祭司の体系の中心的で究極の点

られていました。これは贖われ造り換えられた神のすべての民が共に建造されて一つの実体となることを表徴します——出 28:17-21 :

- A. 金の枠にはめ込まれていた十二の宝石は (17-20 節)、造り換えられた宝石としての聖徒たちがキリストの神聖な性質の中で共に建造されて一つの実体、すなわち、キリストのからだとしての召会となることを象徴します (I コリント 3:10-12 前半, エペソ 1:22-23)。
- B. ですから、胸当ては神の民の建造の縮図であり、それはキリストにある信者たちが個人の区別はあっても、分裂していないことを示します——啓 21:18-20, ローマ 12:5, I コリント 12:27。
- C. 宝石は、創造されたのではなく、創造された材料が造り換えられることによって形成されます。これが表徴するのは、召会が天然のものから神聖なものへと造り換えられることによって生み出されるということです。
- D. 召会の構成要素として、土くれから創造された信者たちは (創 2:7)、彼らの人の性質がその霊の働きを通して (II コリント 3:3, 18)、神聖な性質によって、神聖な性質をもって造り換えられて、神の永遠の建造のための宝石とならなければなりません (マタイ 16:18, ヨハネ 1:42, I ペテロ 2:5, 啓 21:18-21)。クリスチャン生活は造り換えの生活、すなわち、日ごとに神がわたしたちを造り換えることを追い求める生活です (ローマ 12:2-3, II コリント 4:16)。
- E. 十二という数字は、四 (被造物) 掛ける三 (復活における三一の神) から成っています。十二という数字が表徴するのは、三一の神と彼の被造物 (人) をミングリングして、満ち満ちた方法で完全に神の行政を執行して、永遠に至るということです——参照、啓 21:12-13。
- F. 宝石が四列に配列され、各列に三つの宝石があることは、信者たちが造り換えられるだけでなく、三一の神とミングリングされることを示します。
- G. 宝石を金の枠の中にはめ込むことは (出 28:20)、造り換えられミングリングされた信者たちが、キリストの神聖な性質の中で建造されて、一つの実体となることを表徴します (II ペテロ 1:4)。
- H. これらの人々は、十二の数であり、神の永遠の定められた御旨を完成して、宇宙における神聖な統治の行政となります。
- I. 神の永遠のご計画の中で、彼の永遠の観点にしたがって、キリストの心に抱かれ (出 28:29)、彼の愛する顧みの度量の中に保持されている (16

## 7. 祭司の体系の中心的で究極の点

節後半、参照、ヨハネ 10:28) 召会は、三一の神と贖われた人性とのそのようなミングリングです。

III. 十二部族の名を宝石の上に彫ることは、キリストを信者たちの心の中へと書き記して、彼らをキリストの生ける手紙とし、キリストをその内容とすることに相当します——II コリント 3:3 :

- A. キリストは、信者たちが彼を経験することを通して、また新約の務めの書き記すことによって、彼らの中へと書き記されます——2-6 節。
- B. 十二の石の上に彫られた文字は、天的アルファベットの文字としてのキリストを予表します——参照、啓 22:13 前半。
- C. もしわたしたちが造り変えられておらず、透明でないなら、またもしわたしたちが生ける神の霊をもって、また内容としてのキリストをもって書き記されておらず、何の文字もわたしたちの中へと書き記されていない単なる不透明な石であるなら、神がわたしたちを通して語るのとは不可能でしょう。

IV. ウリムとトンミムが胸当ての中へと入れられた後、それは記念となっただけではなく、裁きの胸当てとなりました——出 28:30 :

- A. 「ウリム」は、「光、照らす物」を意味します——30 節 :
  - 1. ウリムは照らす物であり、胸当ての中へと、十二の宝石の下に挿入されました。ウリムには、燃やすための油を入れる所があり、油を燃やすのに用いられた火は、祭壇から来ました。
  - 2. ウリムには十二の照らす物があり、それぞれは胸当ての上の十二の透明な宝石の一つを照らして、宝石が光を発することができるようにしました (David Baron、デイビッド・バロン)。
  - 3. ウリムが予表するのは、キリストが光、照らす方として (ヨハネ 8:12、エペソ 5:14)、その霊 (油) と十字架 (祭壇からの火) を通して照らすということです。
- B. 「トンミム」は、「成就する者、完成する者」を意味します——出 28:30 :
  - 1. 胸当ての十二の宝石の上にある名は、ヘブル語アルファベットの二十二文字のうち十八だけを含んでいました。その他の四文字はトンミムの上であり、トンミムを、成就する者、完成する者としました (David Baron、デイビッド・バロン)。
  - 2. 個々の宝石の上でのウリムの照らしによって、また宝石が暗くなることによって二十二文字のアルファベット全部が用いられて、単語と文

## 7. 祭司の体系の中心的で究極の点

章を書き出すことができました。

3. トンミムは、成就する者、また完成する者としてのキリストを予表します（ヘブル 12:2）。こういうわけで、キリストは書き記し、完成するための霊的なアルファベットです（参照、啓 22:13 前半）。
  4. ウリムとトンミムは共に、神の証し人、神の証しとしてのキリストを予表し（啓 3:14）、神が彼の民に語る手段です（ヘブル 1:2）。
  5. 新約において、ウリムとトンミムの実際は、ミングリングされた霊、すなわち、わたしたちの受け入れる霊（わたしたちの再生された人の霊）に内住する、神の明らかにする霊（聖霊）です——ローマ 8:4, 14, 16, 啓 1:10, 4:2, 17:3, 21:10。
- C. 出エジプト記第 28 章 30 節、申命記第 33 章 8 節と 10 節で、神の裁き（決断）は、神の律法とその判定と裁きを指しており、ウリムとトンミムと関係があります。
- D. 出エジプト記第 28 章 30 節における「裁き（決断）」という言葉は、神の民の間のすべてのことに関して神には規定があることを示します。裁きはある決定をもたらし、その結果として、わたしたちは神の導きを持ちます。
- E. 旧約によれば、胸当てに加えられたウリムとトンミムは、神がご自身の民に語って彼らにご自身の導きを示す手段でした。こういうわけで、わたしたちは、裁きの胸当てが導きの胸当てであると言えます——レビ 8:8, 民 27:21, 申 33:8, ヨシュア 7:16-21, サムエル上 23:6, 9-12, 28:6, エズラ 2:63, ネヘミヤ 7:65。
- F. 胸当てを通しての神の導きは常に、裁きと関係がありました。神の律法は彼の裁きを含んでおり、これらの裁きは神の導きとなります。
- G. 霊的な経験において、わたしたちは神の導きを知るために、肉、自己、古い人、この世のものは何であれ裁かなければなりません。
- H. ローマ第 8 章 14 節でその霊の導きは、胸当てを通しての神の導きの実際として、その章の 1 節から 13 節にあるすべての裁きから出て来るものであり、その裁きの総合計です。
- I. 神の導きとしての神の語りかけが胸当てを通してであったという事実は、神が彼の導きを、召会を通して彼の民に知らせることを表徴します：
1. 胸当ておよびウリムとトンミムを通して主が語るためには、イスラエルの子たちの名が彫られた十二の宝石のある胸当てを作ることを必要とし、また大祭司が胸当てを胸（心の上）に担うことを必要としました。

## 7. 祭司の体系の中心的で究極の点

2. 同じ原則で、召会および照らす方（ウリム）また完成する方（トンミム）としてのキリストを通して神が今日、語るためには、造り変えられた透明な宝石である、霊的なアルファベットの文字としてのキリストが書き記された信者たちをもって（Ⅱコリント 3:3）召会が建造されることを必要とし、また導く者が心の上に召会を担うことを必要とします。

### V. 神の導きのための裁きの胸当ては、天的で、神聖で、霊的なタイプライターのものでした。またウリムとトンミムのある胸当てを通して彼が語る方法は、わたしたちが期待することと相反します：

- A. 神は、輝いている宝石を通して語るのではなく、暗くなる宝石を通して語ります。これは神が消極的な状況を通して語ることを意味します。裁きの胸当てによる主の語りかけは消極的な状況を通してであるので、その語りかけは裁きです。それは主の民に関する主の思いを啓示するものです。
- B. 通常、胸当ての十二の宝石は、ウリムの輝きの下にありました。突然、ある名が彫られている部分が暗くなりました。このように特定の宝石が暗くなるのが、神の即時的な語りかけでした：
  1. パウロの書簡と、アジアの七つの召会にあてられた主イエスの七つの書簡はすべて、この原則にしたがって書かれました。それらは諸召会において見いだされる積極的な事柄にしたがってではなく、諸召会の消極的な状況にしたがって書かれました。
  2. パウロは、コリントにおける消極的な状況から彼が読み取ったことにしたがってコリント人への第一の手紙を書きました。彼の文書は消極的な事柄に基づいていましたが、この書簡において彼は、積極的な事柄、すなわち、キリストの豊富を召会に供給しました。
  3. コリントの聖徒たちは、パウロの書簡の霊的なアルファベットにおいて彼が用いた文字となりました。同様に、地方召会において導く者たちは、実際の状況と聖徒たちの状態を読み取ることによって、主の導きを尋ね求める必要があります。
  4. 今日のクリスチャンの間の問題は、あまりにも多くの暗やみがあるので、神が暗やみを暴露しかねるといことです。暗やみが知られるために、まず光の輝きがなければなりません。神は光の輝きのただ中で消極的になる事柄を通して語ります。
  5. わたしたちはこのように消極的な状況を読み取ることによって、神の

## 7. 祭司の体系の中心的で究極の点

導き、神の裁きを知るようになります。そのとき、わたしたちは自分の地方において、神がわたしたちに何を行なってほしいのかを知り、それから神の導きに従うべきです。

- C. わたしたちは召会として裁きの胸当てとなろうとするなら、いくつかの条件を満たさなければなりません：
1. わたしたちは造り変えられ、透明になる必要があります。それから霊的なアルファベットとしてのキリストが明確に、確実にわたしたちの中へと書き記されなければなりません——Ⅱコリント 3:3, 18. 参照、歴代上 28:19。
  2. 宝石に文字が書き記されない限り、神は胸当てを通して語るができなかったように、神の贖われた民にキリストが書き記されない限り、神は彼らを通して語ることはできません——ヘブル 8:10。
  3. 造り変え、透明さ、書き記すこと、照らしに欠けているので、わたしたちは、自分が透明になり、キリストがさらに多くわたしたちの中へと書き記され、さらに多くの照らしを経験するように祈る必要があります——啓 22:1, 21:11, 詩 119:130, イザヤ 2:5, エペソ 5:8-9, 詩 89:15, Iヨハネ 1:7。
  4. キリストが書き記すことと完成の両方に対する霊的なアルファベットであるという事実は、彼が無尽蔵であることを示します。わたしたちは彼の書き記すことを享受するかもしれませんが、わたしたちは完成のために依然として彼をさらに多く必要とします——参照、ヘブル 6:1, ペリピ 3:10, 13-14。
- D. 胸当ては、からだの生活を建て上げることであり、わたしたちが神の民に関する神のみこころを知る手段です。それからわたしたちは行なわなければならないこと、あるいは行なってはならないことについての主の判断を受けます。わたしたちは主の道を知り、召会全体は主によって与えられた判断にしたがって前進します。
- E. わたしたちは、あらゆる地方召会が出エジプト記第 28 章の絵にしたがって胸当てとなるように祈る必要があります。

務めからの抜粋：

## ウリムとトンミムの今日の適用

胸当ての十二の透明な宝石が示しているのは、キリストが聖徒たちを通

## 7. 祭司の体系の中心的で究極の点

して輝いて、神のみこころが示されるために、聖徒たちが透明でなければならぬということです。仮に胸当ての上の十二の宝石が透明ではなく、不透明であったとします。さらに、どの石の上にも何も書き記されておらず、何の光も輝いていなかったとします。それでは石は不透明で、書き記すことはなく、光の輝きもなかったことでしょう。そのような場合、胸当てを用いて神のみこころ、神の導きを見いだすことは不可能でしょう。これは今日、大部分のクリスチャンの群れにおける状態です。透明さ、書き記すこと、光がありません。これがある地方召会の状況であるかもしれないということが、大いにあり得るのです。

何年も前、中国大陸においてわたしはいわゆる召会をいくつか訪問しました。これらの群れのあらゆる人は不透明であり、造り変えと透明さに全く欠けているように見えました。さらに、キリストはほとんど聖徒たちの中へと書き記されていませんでした。彼らは名目上キリストを持っているようでしたが、彼らはキリストに対する経験に非常に欠けていました。さらに、彼らの間には何の光もありませんでした。彼らが必要としていたものは、とても基本的で初歩的な助けでした。神のみこころは彼らを通して知らされることはできませんでした。

わたしたちがこれらのメッセージの中で取り扱ったことにしたがって、今日の大多数のクリスチャンの状況を考察するなら、あなたは多くの場合、信者たちには透明さがなく、不透明さがあることを認識するでしょう。事実上、キリストが書き記されることはありません。光の輝きどころか、暗やみがあります。

もし地方召会としてのわたしたちが神によって胸当てとして用いられようとするなら、わたしたちはみな透明でなければなりません。またわたしたちはキリストがわたしたちの中へと書き記されていなければなりません。これが意味するのは、わたしたちが神の霊的アルファベットの文字としてのキリストに対する具体的な経験をいくらか持たなければならないということです。わたしたちのキリストに対する経験は、不明瞭であってはなりません。そうではなく、それは明瞭で明確であるべきです。しかしながら、わたしたちを含む大部分のクリスチャンの間の状況は、これとは大いに異なっています。

わたしたちが主によって照らされるなら、またわたしたちが主の権益の負担を担っているなら、わたしたちは神の民の間の状況によって悩まされるでしょう。わたしたちは聖徒たちと諸召会の両方の状況と状態を考え

## 7. 祭司の体系の中心的で究極の点

ば考えるほど、ますます負担を持つでしょう。わたしたちは透明さに欠けていること、書き記すことに欠けていること、光の不足について深く心配するでしょう。

### 召会に関する主の導きを受ける

胸当ておよびウリムとトンミムの今日の適用は、導く者たちがその心に聖徒たちとキリストを担うことも必要とします。それは彼らが聖徒たちの状態を知り、また神の導きのためにキリストが完成することを知るためです。あらゆる地方召会には、その心に聖徒たちとキリストとを担う一群れの導く者たちがいなければなりません。これらの導く者たちは、主の照らしを見て、また聖徒たちを読み取る必要があります。そうすれば彼らは自分たちの地方における召会に関する神の導きを受けることができるでしょう。

### 神の語りかけの方法

ウリムとトンミムのある胸当てを通して神が語る方法は、わたしたちが期待することと相反します。神は、輝いている宝石を通して語るのではなく、暗くなる宝石を通して語ります。これは神が消極的な状況を通して語ることを意味します。通常、胸当ての十二の宝石はウリムの輝きの下にありました。突然、ある名の彫られている部分が暗くなります。このように特定の宝石が暗くなるのが、神の即時的な語りかけでした。わたしたちの天然の観念は、胸当てを通しての神の語りかけは、輝いている宝石から来たということでした。実は、神は突然暗くなった宝石を通して語りました。

パウロの書簡と、アジアの七つの召会に対する主イエスの七つの書簡はすべて、この原則にしたがって書かれました。それらは諸召会において見いだされる積極的な事柄にしたがってではなく、諸召会の消極的な状況にしたがって書かれました。例えば、パウロのコリント人への第一の手紙を取ってみてください。もしコリントに在る召会に何の消極的な事柄も見いだされなかったとしたら、わたしはコリント人への第一の手紙が書かれたとは思いません。パウロは、コリントにおける消極的な状況から彼が読み取ったことにしたがってこの書簡を書きました。その状況を考察することによって、彼は何を書くべきかを知りました。しかし、彼の文書は消極的な事柄に基づいていましたが、この書簡において彼は、積極的な事柄、す



## 7. 祭司の体系の中心的で究極の点

なわち、キリストの豊富を召会に供給しました。

今日のクリスチャンの間の問題は、あまりにも多くの暗やみがあるので、神が暗やみを暴露しかねるといことです。あらゆるものが暗やみの中にあるとき、暗やみの中にある特定の事柄を指摘することは難しいのです。仮に、ある部屋の天井に多くの電灯が並んでいるとします。すべての電灯が輝いているなら、暗くなるものを見いだすことは容易でしょう。これは神がどのように胸当てを通して語ったかを例証します。特定の石が暗くなることは神の即時的な語りかけでした。

今日のクリスチャンの状況は不正常です。光どころか、暗やみがありません。結果として、神にはほとんど語る方法がありません。暗やみが知られるために、まず光の輝きがなければなりません。もし部屋の中に何の電灯もないなら、暗やみが示される道はありません。しかし、すべての電灯が輝いているときに、特定の電灯が暗くなると、直ちにわかります。その暗さは、何かが間違っていることを示すものです。もし特定の召会で間違っている事柄が容易に見いだされるなら、その召会は正常です。しかし、もし特定の召会の中で何が間違っているかを見いだすことができないなら、これはその召会が暗やみの中にあるということを示します。暗やみが優勢であるとき、消極的な事柄が暴露されることはできません。このために、光が必要です。光の輝きの下で暴露されるものは、神の語りかけです。神は消極的になっている事柄を通して語ります。このような消極的な状況は、キリストが欠けていることを示しています。このように消極的な状況を読み取ることによって、わたしたちは神の導きを知るようになります。そのとき、わたしたちは自分の地方において、神がわたしたちに何を行なってほしいのかを知り、それからわたしたちは彼の導きに従うべきです。

### 裁きと供給

胸当てを通して得られた導きは常に裁きと関係があります。これは、胸当てを通しての主の語りかけが消極的な状況を通してであることを意味します。もしこの語りかけが積極的な状況を通してだけであったとしたら、裁きの必要はなかったでしょう。なぜなら、あらゆるものは積極的で、義とされるからです。しかし、主の語りかけは消極的な状況を通してであるので、その語りかけは裁きです。

使徒パウロは真に輝いている人でした。パウロの輝きの下で、暗やみは

## 7. 祭司の体系の中心的で究極の点

暴露されました。パウロは諸召会の聖徒たちの暗やみにしたがって、すなわち、消極的な状態にしたがって彼の書簡の特定のものを書きました。パウロはコリントに在る召会の特定の暗い部分、神の裁きの文字の部分を見たので、彼は裁きの書としてコリント人への手紙を書くことができました。しかし、この書簡の中に含まれているすべての裁きと共に、多くの積極的な事柄があります。それはコリントの信者たちに供給されたキリストの豊富です。これが、神が語る方法です。旧約と新約とのいずれにおいても、神の語りかけは、消極的な状況にしたがっていますが、彼の民に対する供給としてのキリストの豊富を伴っています。

### キリストに対する十分な経験の必要

わたしたちは召会として裁きの胸当てとなろうとするなら、いくつかの条件を満たさなければなりません。まずわたしたちは造り変えられ、透明になる必要があります。それから霊的なアルファベットとしてのキリストが明確に、確実にわたしたちの中へと書き記されなければなりません。これはキリストに対する十分な経験を持つことです。

最近、ある兄弟が証しをしましたが、しばしば導く者たちがキリストに対する経験について新しい人や若者たちに語る時、これらの導く者たちは、自分自身が明確で確実なキリストに対する経験を持っていないことを認識しています。わたしたちは他の人たちにキリストを供給しようとしないうちに、キリストに対する経験に関してわたしたちがどれほど不足しているかを認識しないかもしれません。わたしたちはキリストに対する経験について他の人たちに語ろうとする時、自分自身が依然として非常に経験に欠けていることを見いだすでしょう。わたしたちは他の人たちに供給するためのキリストに対する真の経験をほとんど持っていないかもしれません。聖徒たちを牧養する者たちとして、わたしたちはキリストに対する経験を必要とします。そうでなければ、わたしたちはキリストを供給するために必要かつ適切な霊的語彙に欠けるでしょう。わたしたちはキリストを他の人たちに供給したいのですが、キリストに対するどのような経験を持っているのでしょうか？ ある程度までわたしたちは聖書を教えることができるかもしれませんが、なぜなら、わたしたちは、何年間もそれを読んだり、学んだりしてきたかもしれないからです。しかし、キリストを供給することになると、わたしたちには欠け目があります。わたしたちはキリストがあまり多くわたしたちの存在の中へと書き記されていません。おそら

## 7. 祭司の体系の中心的で究極の点

くわたしたちは自分の中へと書き記された文字の一部分だけを持っているでしょう。これが今日の多くのクリスチヤンの状態です。ですから、胸当てを通して主の導きを知ることは非常に困難です。

そのような造り変え、透明さ、書き記すこと、照らしに欠けているので、わたしたちは、自分が透明になり、キリストがさらに多くわたしたちの中へと書き記され、さらに多くの照らしを経験するように祈る必要があります。そうすれば、たとえわたしたちはキリストで満たされていても、わたしたちには依然として欠け目があることを認識するでしょう。なぜなら、キリストの豊富なものが依然として欠けているからです。これがウリムとトンミムのある胸当ての驚くべき絵によって示されていることです。

### わたしたちはさらに多く経験する必要があることを認識する

ウリムとトンミムを伴う胸当てについて、わたしたちは二種類のアルファベットを見ます。一つの種類のアルファベットは書き記すためであり、そしてもう一つの種類は完成するためです。もしわたしたちがまだキリストに満ちていないなら、わたしたちが必要とすることは書き記すことです。わたしたちがキリストに満ちるまで、キリストはわたしたちの中へと書き記されなければなりません。わたしたちはキリストに満ちているとき、完成の必要を認識します。こういうわけで、もしわたしたちがキリストに満ちていないなら、彼を書き記すためのアルファベットとして必要とします。しかし、わたしたちは彼に満ちているとき、彼を完成のためのアルファベットとして必要とします。使徒パウロのような信者たち、すなわち、キリストに満ちている人たちは、依然としてキリストを必要とすることを認識します。しかしながら、キリストに欠けている人たちは、キリストの必要を感じないかもしれません。今日のなまぬるいクリスチヤンの多くは、どれほど彼らがキリストを必要とするかについて全く認識を持っていません。わたしたちはキリストにわたしたちの中へと書き記していただいたとき、依然としてキリストに欠けているということを認識します。そのとき、わたしたちは彼にわたしたちの完成となっていていただくように尋ね求めます。

キリストがわたしたちの中へと書き記されたこと、そしてキリストがわたしたちを完成することについてわたしたちが語るができるのは、確かに主のあわれみです。このことに関して語るクリスチヤンを見いだすことは容易ではありません。今わたしたちが必要とするのはさらに多くの経

## 7. 祭司の体系の中心的で究極の点

験です。経験を通してのみ、わたしたちはキリストにわたしたちの中へと書き記していただくとは何であるか、また彼にわたしたちを完成していただくとは何であるかを理解することができます。ですから、わたしたちはみなこれらの事柄に関してさらに祈る必要があります。わたしはあらゆる地方召会が出エジプト記第 28 章の絵にしたがって胸当てとなることを望みます(出エジプト記ライフスタディ、メッセージ 129)。